横芝の碑

子弟愛、恩師祝賀の碑（一二一）

上堺小学校の前を海岸方面に下っていくと、すぐ左側に、何気ない風情を見せた碑が建っています。これは、上境小学校四代目の校長鶴見周平先生の教え子が、先生七十の齢を祝して建立した、子弟愛溢れる碑なのです。

先生は、文久三年（一八六三）に、新潟県中蒲原郡の名門鈴木家に生まれましたが、教職を志す人人の多くがそうであるように、先生もまた、幼いころから勉学を好み、中でも、語学、書道、数学に勝れていました。学制発布直後のことで、読み、書き、珠算が主要課目とされていたころのことですから、先生の才能は高く評価され、推されて、創設後間もない新潟県立新潟学校師範科（後の師範学校）に入学し、教え年十九歳の明治十四年に卒業しました。卒業とともに故郷の小学校で教壇に立っていましたが、昭治二十年に縁あって上堺村新島の鶴見家の養子に迎えられました。そして、求められて上堺小学校に奉職することになりました。

持って生まれた性格でしょうか、修養の結果によるものでしょうか、その雅量と抱擁力、そして勤勉さは教え子の児童達には勿論、村の人々にも好感を持たれ、郡や県から転任等の話が出るごとに引き止め要請が出され、ついに上堺小学校に在職のまま校長に昇進され、退職された大正三年三月まで、実に二十有七年を過ごされたのです。

先生は、教師としてばかりでなく、一社会人としても子供達を愛され、日曜や祭日には、先生の家で、教育カルタや教育スゴロクなど先生発案のゲームを楽しむ子供達の姿が、終日絶えなかったということです。こうして先生に愛されて育った教え子達は、先生が元気で古希を迎えられたことを喜び合い、その気持ちが、この碑となって表現されたのです。

写真はその碑で、表面の題字には「鶴見先生古希之碑」、そしてその下には「我郷ニ良師在リ玲瓏玉ノ如キ風格ニ溢ルル慈愛ト熱情ト能ク同窓千有余ヲ教化シテ蕨ノ徳二代ニ及ビ一村尽ク仰グモノ即チ鶴見先生ナリ、先生旧ハ鈴木周平ト称シ文久三年三月一日ヲ以テ新潟県中蒲原郡曽野木村字嘉木ノ名家ニ生ル、後千葉県山武郡上堺村新島鶴見さき刀自ノ養嗣子トナル十九歳新潟県学校ニ於テ小学校師範学科ヲ卒業後直チニ教職ニ就き爾来諸学校ニ歴任シテ、明治二十年五月上堺尋常小学校訓導トナリ更ニ校長ニ進ミ、大正三年三月ソノ職ヲ退カル、ソノ育英ニ励精スル実ニ三十余年ニシテ効績ノ甚大ト篤行ノ著シキト世ニ希ナリ、先生今ヤ齢七十ニ達シ尚矍鑠トシテ壮者ヲ凌グモノ在リ、同窓子弟相見テ喜ビニ耐エズ、乃チ今年四月古希ノ賀ノ盛典ヲ挙ゲ、慈ニ碑ヲ建テ表シテ記念トスル、昭和七年四月二十四日、上堺小学校出身門弟一同之建」と刻まれています。

文中「壮者凌グモノ在リ、同窓子弟相見テ喜ビニ耐エズ」の一節に、他の碑に見られない温もりを感じます。

碑の前の木材は、近くの建築現場のものですが、工事が始まるまでは、碑の後と両側が生垣に囲まれていて、見えなかったのです。

本稿取材にあたり、元教育長の小高猶次氏及び鶴見先生の教え子という、新島の川島弥作氏のご指導をいただきました。

横芝町文化財審議会委員
小沢春光さん寄稿

俳壇

分冊の歳時記の色年新た　土屋　栗水

襟巻を膝にたたみて席きまる　成田　愫子

亀光の歓もめでたく鏡餅　宇井　芝童

初氷菜屑ひとひら張り込めし　藤代　ゆう

去年今年慕ふ心も老ひにけり　向後　雅子

鏡餅傘寿（さんじゅ）の母の掌に生れ　池田　和代

鏡餅地蔵に頭布新しく　鈴木　南知

松が枝の間より初日を拝しけり　津田　若菜

母作る年期の入りし鏡餅　若梅あやめ

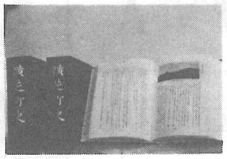
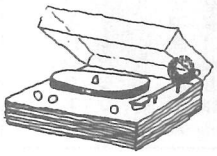
まだ煮物続ける厨去年今年　海保恵保子

龍のひげ庵閑かや去年今年　海保　きみ

遠近の鏡の響きや去年今年　鈴木　草庵

ませんか・・・

古代から――
町のあゆみの集大成
横芝町史
町内二、五〇〇円
町外三、五〇〇円



心やすまる
ふるさとのしらべ
横芝小唄（レコード）
三〇〇円